

凡事徹底(縁)

八代第一中学校

生徒指導通心

第15号 2023. 9. 8 (金)

校訓：一中生徒としての最善最高の自覚と実践 綱領：至誠貫徹・真理探究・耐久持続
学校教育目標：『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校』
スローガン：『夢実現・自己実現』～笑顔と挑戦 一中プライド～

生徒指導(9月)月目標～「人の話を目と耳と心で聴く」を意識した生活を～

生徒指導の月目標は、やつしろスピリッツを基盤とした取組になります。一中生全員が、「夢実現・自己実現」という同じ目標に向かって、誰にでもできる平凡なことを誰にもできないくらい徹底して取り組み、一つ一つ確実に積み重ねていくことこそが、やがてとてつもなく大きな力（一中学生の成長）につながるのだと確信しています。体育大会では、団長の声、リーダーの言葉をしっかりと聴き、込められた思いを心で感じ自ら動く一中学生の姿を期待しています。（実践）

「人の話を目と耳と心で聴く」

①姿勢を整え、相手を見て ②話の最初から最後まで ③心で感じて自ら動く

「勝 翔 笑」～求めよう！勝ちを 翔けよう！現在を 味かせよう！笑顔を～

いよいよ体育大会ですね。学級、学年、学校が一つになる大切な一日になります。体育大会スローガンのもと、707名の一中生で団結し、かけがえのない思い出の1ページをつくりましょう。前向きにもがき苦しむ経験は、すぐに結果に結びつかなくても必ず自分の生きる力になってきます。一生懸命な姿をしっかりと目に焼き付けておきます。最後に、私が学級担任時代に活用していました、『ウサギとカメ』オリジナル版を元にお話しします。

なぜ、ウサギはカメとの競争に負けたのか。油断をして昼寝をしてしまったから。私が考える勝負の分かれ目は、「ウサギはカメを見ていた」、「カメはゴールを見ていた」この違いです。地道にコツコツと努力を続けると勝てるのが、勝負の世界でいう『1回戦』の話です。

しかし、それはお互いが成長途上である、あくまでも『1回戦』の話です。このままのやり方を続けるのみでは『2回戦』ではカメが勝てる確率は低くなります。努力する秀才が油断した天才に勝つことはあるかもしれませんが、天才が同じ努力をはじめたら秀才が勝つことは不可能に近いものです。

そして、ウサギがカメに再挑戦しました。『2回戦』の始まりです。今度は当然ウサギの完勝です。カメはウサギの実力に呆然とするばかりです。今度はカメが悔しがりました。ウサギは自信満々の表情で「車や道具さえ使わなければいつでも受けて立つよ」と言いました。果たして、この後カメに勝ち目はあるのでしょうか。そして、悩みながら母親カメのもとに帰りました。

母親カメは一言も慰めず、沈黙のあとに「自分のことを分かっていないと勝負にならないよ。よく考えて自分のフィールドで勝負だよ」と言いました。カメは山に戻って海を見ながらじっくり考えました。そして、「試合場だけ私に選ばせてくれませんか」とお願いをしました。

『3回戦』の始まりです。結果は「カメの圧勝」でした。理由はカメが選んだゴールのポールが、今回は山の上ではなくて海岸から離れた小島に立てられていたからです。カメは自分のフィールドで、自分のペースで勝つことができたのです。大切なのは、「自分の土俵（個性・強み）を知る」という選択だったのです。カメに道具を使うなどと言ったウサギは、浮き輪もボートも使えませんでした。素直なカメは、考え方を改めることで大逆転できたのです。

母親カメは、うれしそうなお子カメを抱きしめながら、「こんなにいろいろな経験ができたのは誰のおかげかな」と聞きました。海と山の境界線で、ウサギとカメは再会しました。お互いになんとか恥ずかしくなってきました。「勝たないと意味がない」と叫んでいた観衆は、もう誰もいなくなっていました。カメはウサギを背中に乗せてスイスイ泳ぎ、小島のポールを取りに行きました。ウサギは、カメを背負ってピョンピョン跳び、山の上のポールを取りに行きました。ウサギとカメは、力を合わせれば海も山も自分たちのフィールドに変わることに気づけたのです。ウサギとカメは山の山頂で海を見下ろしながら、空を飛び鳥に「僕たちと友だちにならないかい？一緒にやったら違う世界が広がるんだよ」と声をかけました。